

スーパー耐久 第3戦 鈴鹿サーキット アクシデントに見舞われ、クラス4位に終わる

2017年6月11日(日) 第3戦 鈴鹿サーキット

梅雨入りしたにも関わらず、晴天に恵まれたスーパー耐久第3戦は三重県にある鈴鹿サーキットで開催されました。Modulo Racing Project 97号車 Modulo CIVIC TCR は、第1戦・2戦を共に戦ってきたメンバーをがらりと変え、ホンダワンメイクレースで実績を残した幸内秀憲選手、Modulo開発ドライバーの土屋圭市選手、そして日本人初のWTCCレギュラードライバーとして世界選手権に参戦する道上龍選手にスケジュールの合間を縫って参加いただき4時間レースへ挑みました。

1番手走行を任されたのが、Hondaのワンメイクレースで実績を積み上げてきた幸内選手。今回は車両に30Kgのウエイトハンデを背負わされているにもかかわらず、序盤から2'20秒台前半の安定したリズムを刻みながら、先行するライバルに食らいつく粘り強い走りをみせました。

次にステアリングを任されたのは、14年ぶりに現役復帰を果たした土屋選手。久しぶりの公式戦とは思えないような快走を披露し、安定して速いラップタイムで走行。1分近く離されていたライバル45号車をひたひたと追い上げ、その差を20秒にまで追い詰めました。

そしてレースも残り約1時間、第3ドライバーの道上選手に逆転の望みとともにステアリングを託しました。しかし、コースイン後1周目の最終コーナーでST-5クラスのクルマに後方から接触されスピン、右リアタイヤをバーストしてしまいました。ダメージを負ったまま、ほぼ1周を走行せざるを得ず、ピットインし急いでタイヤ交換するも、クラス最下位まで順位を落としてしまいました。リアサスペンションもダメージを受け万全の状態でない中、終始2分19秒後半から2分20秒前半の好タイムを刻み、チェッカー直前に10号車をパスしてクラス4位でレースを終えました。



Modulo Racing Project
97号車 Modulo CIVIC TCR



第3戦 鈴鹿
エントリードライバー

<97号車ドライバー 幸内秀憲（第1走者）選手コメント>

二人のビッグドライバーと共に、ホンダアクセス・童夢という恵まれた体制でドライブできる機会を頂いた上に5年振りの公式レースのスタートドライバーを託され、とても緊張した。しかし、走り出してみるとその緊張感も和らいだ。久々の公式レースだったが、とても良い環境でいろいろ学ぶこともでき、レースも存分に楽しめた。次回の出場は富士の10時間レースになるので、それまでに少し走り込みをして備えたい。

<97号車ドライバー 土屋圭市（第2走者）選手コメント>

勝利が見えていただけに、不運なアクシデントで4位に終わってしまい残念。しかし、週末を通して車両の感じも掴めてきたし、オートポリスでは優勝を狙えると思う。決勝レース中にドリンクが出なかったり、クールスーツが効かなかったりと、とても過酷ではあったけど、久しぶりのレースはとても楽しかった。

<97号車ドライバー 道上龍（第3走者）選手コメント>

自分にバトンタッチした途端にあのような結果になってしまって申し訳ない。1-2フィニッシュの可能性も大いにあっただけに、不可抗力のアクシデントだったとは言えとても残念。ウェイトハンデはあるが、次に自身が出場する富士スピードウェイの10時間レースでも十分勝算はあると思う。

お客様からの商品についてのお問合せ先：「株式会社ホンダアクセス お客様相談室 0120-663521」
受付時間：9～12時、13～17時（土日・祝日・弊社指定定休日は除く）